

# 第4章

## 地域や社会とのつながりと 幸福実感



前回調査では、近所づきあいの有無、地域や社会への貢献意欲などの傾向から、地域や社会へのつながりと幸福実感には関連があることがわかりました。この章では、「会話の頻度」、「地域活動への参画状況」の今回調査で設けた新たな質問、「地域の住みやすさ」に関する分析を記載しています。

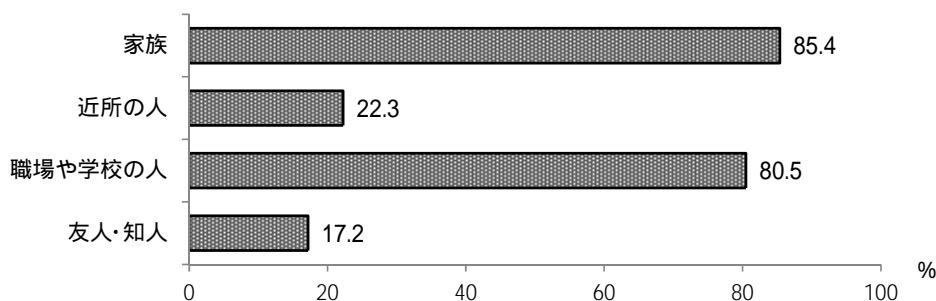
## 第1節 会話の頻度について

### 1 県全体の集計

普段、どの程度人と直接会話しているかを「家族」、「近所の人」、「職場や学校の人」、「友人、知人」に区分して質問したところ、『日常的に会話』( )している割合が最も高いのは「家族」(85.4%)であり、次に「職場や学校の人」(80.5%)、「近所の人」(22.3%)、「友人や知人」(17.2%)の順になっています。また、『ふだん会話しない』割合が最も高いのは「友人や知人」(43.2%)となっています。(図表4-1-1~4-1-3)

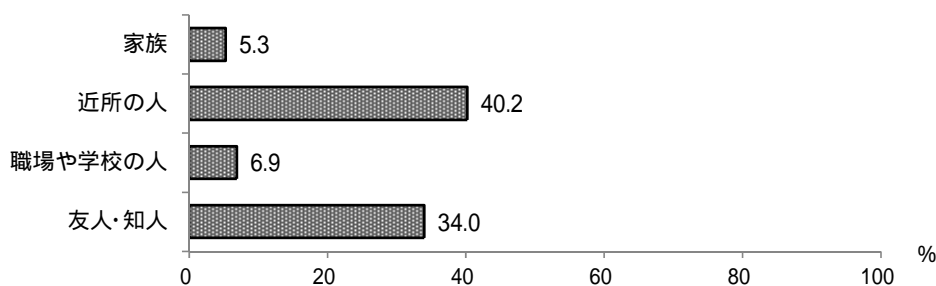
この章では『日常的に会話』(毎日~週に数回)、『ある程度会話』(週1回~月数回)、『ふだん会話しない』(月に1回~年数回、年1回、まったくない(いない)の合計)の3区分として記述をしています。

図表 4-1-1 会話の頻度(『日常的に会話』している割合)

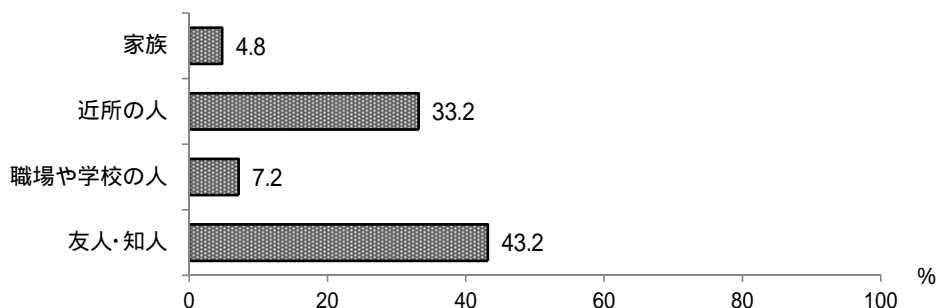


「家族」、「近所の人」、「友人・知人」は有効回答者全てを対象に集計し (n=5,456) 「職場や学校の人」は「専業主婦・主夫」、「無職」と回答した人を除いて集計しています。(n=3,431)(図表4-1-2、4-1-3も同様)

図表 4-1-2 会話の頻度(『ある程度会話』している割合)



図表 4-1-3 会話の頻度(『ふだん会話しない』割合)



## 2 『ふだん会話しない』層の属性別の特徴

### (1) 家族と『ふだん会話しない』層の特徴

単独世帯、離別・死別、学生など家族がいない(又は同居していない)と思われる属性項目で割合が高くなっています(図表4-1-4)。

図表 4-1-4 ふだん会話しない層(家族)について特徴のある属性項目

割合が高い	割合が低い
20歳代 学生、無職 未婚、離別・死別 単独世帯 0～200万円未満	30歳～40歳代 正規職員 有配偶 一世代世帯、二世帯世帯、三世帯世帯 400万円以上

(備考)「割合が高い」は、『ふだん会話しない』の割合の合計が県全体より高い属性項目で、「割合が低い」は、『ふだん会話しない』割合の合計が県全体より低い属性項目で、いずれの差も統計的に有意な水準(危険率5%未満)のものを記載しています。また、金額は世帯の年間収入です。(図表4-1-5、4-1-6、4-1-7、4-1-9も同様)

### (2) 近所の人と『ふだん会話しない』層の特徴

男性、20～50歳代、正規職員など、自宅にいる時間が少ないと思われる属性で割合が高くなっています(図表4-1-5)。

図表 4-1-5 ふだん会話しない層(近所の人)について特徴のある属性項目

割合が高い	割合が低い
北勢地域 男性 20～50歳代 正規職員、学生 未婚 単独世帯、二世帯世帯 500万円以上	伊勢志摩地域、東紀州地域 女性 60歳以上 農林水産業、自営業・自由業、専業主婦・主夫、無職 有配偶、離別・死別 一世代世帯 0～300万円未満

### (3) 職場や学校の人と『ふだん会話しない』層の特徴

農林水産業、自営業・自由業など一人の職場が多いと思われる属性で割合が高くなっています(図表4-1-6)。

図表 4-1-6 ふだん会話しない層(職場や学校の人)について特徴のある属性項目

割合が高い	割合が低い
60歳以上 農林水産業、自営業・自由業 単独世帯、一世代世帯 0～300万円未満	20～50歳代 正規職員、パート・アルバイト・派遣 二世帯世帯 600万円～1,000万円未満

### (4) その他の友人・知人と『ふだん会話しない』層の特徴

男性、30～50歳代、正規職員、有配偶などで割合が高くなっています(図表4-1-7)。

図表 4-1-7 ふだん会話しない層(その他の友人・知人)について特徴のある属性項目

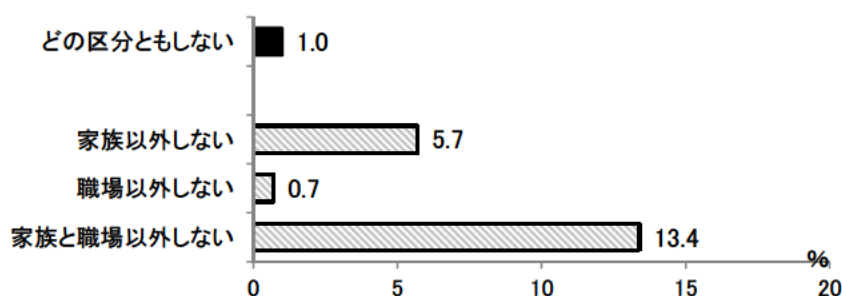
割合が高い	割合が低い
北勢地域 男性 30～50歳代 正規職員 有配偶 二世帯世帯 600～800万円未満、1,000万円以上	伊勢志摩地域、東紀州地域  20歳代、70歳以上 農林水産業、自営業・自由業、学生、無職 離別・死別 単独世帯 0～200万円未満

### 3 誰とも『ふだん会話しない』層

家族、近所の人、職場や学校の人、その他の友人・知人のどの区分の人とも『ふだん会話しない』割合は1.0%となっています。また、家族以外とは『ふだん会話しない』が5.7%、職場や学校の人以外とは『ふだん会話しない』が0.7%、家族と職場や学校の人以外とは『ふだん会話しない』が13.4%となっています（図表4-1-8）。

なお、どの区分の人とも『ふだん会話しない』層の割合が高い属性は、60歳代、無職、単独世帯、世帯年収0～100万円未満となっています（図表4-1-9）。

図表 4-1-8 複数区分で『ふだん会話しない』割合



図表 4-1-9 複数区分で『ふだん会話しない』層について特徴のある属性項目

割合が高い	割合が低い
どの区分の人とも『ふだん会話しない』	
60歳代 無職 単独世帯 0～100万円未満	20～40歳代 正規職員、パート・アルバイト・派遣 二世帯世帯、三世帯世帯 500～600万円未満
家族以外の人と『ふだん会話しない』	
70歳以上 専業主婦・主夫、無職 一世帯世帯 0～100万円未満、200～300万円未満	伊勢志摩地域 50歳代 農林水産業、自営業・自由業、正規職員、パート・アルバイト・派遣 単独世帯、三世帯世帯 600万円以上
職場や学校の人以外の人と『ふだん会話しない』	
男性  未婚 単独世帯	女性 70歳以上 有配偶 二世帯世帯、三世帯世帯 800～1,000万円未満
家族、職場や学校の人以外の人と『ふだん会話しない』	
北勢地域 男性 20～50歳代 正規職員、パート・アルバイト・派遣 未婚 二世帯世帯 500～1,000万円未満	中南勢地域、伊勢志摩地域、東紀州地域 女性 60歳以上 農林水産業、自営業・自由業 離死別 単独世帯、一世帯世帯 0～300万円未満

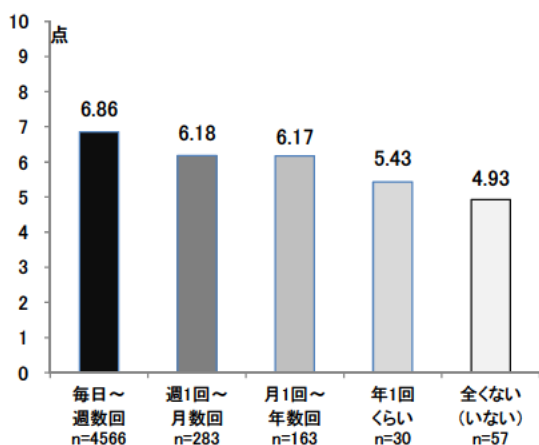
#### 4 会話の頻度と幸福感の関係

会話の頻度と幸福感の関係を見ると、全ての区分で会話の頻度が高いほど、幸福感の平均値が高くなる傾向にあります。また、区分別に見ると、平均値の差が最も大きいのが「家族」で、次いで「友人・知人」、「近所」、「職場や学校」の順となっています(図表4-1-10～4-1-13)。

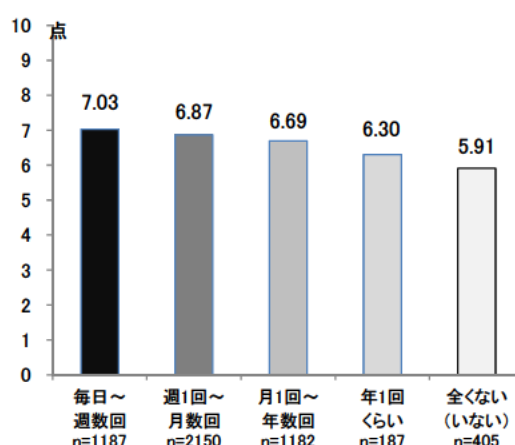
また、複数の区分での会話の頻度と幸福感の関係を見ると、『ふだん会話する』(※)層の幸福感の平均値が最も高くなっています(図表4-1-14)。

※ 『ふだん会話する』は、近所の人あるいは友人や知人と『日常的に会話』、『ある程度会話する』と回答した人

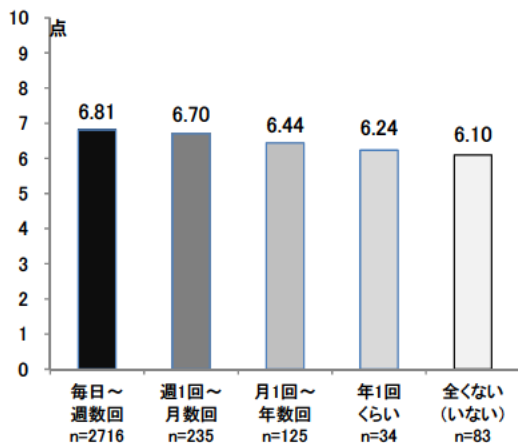
図表 4-1-10 幸福感の平均値(家族との会話頻度別)



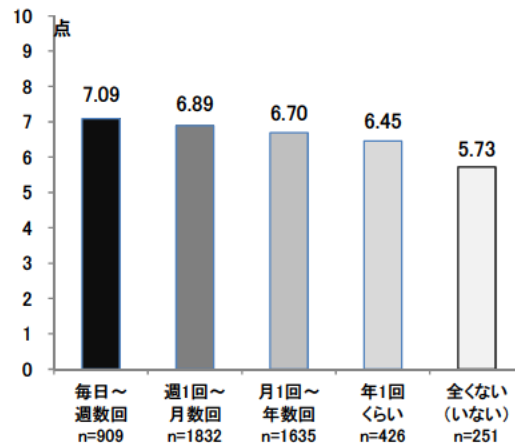
図表 4-1-11 幸福感の平均値(近所の人との会話頻度別)



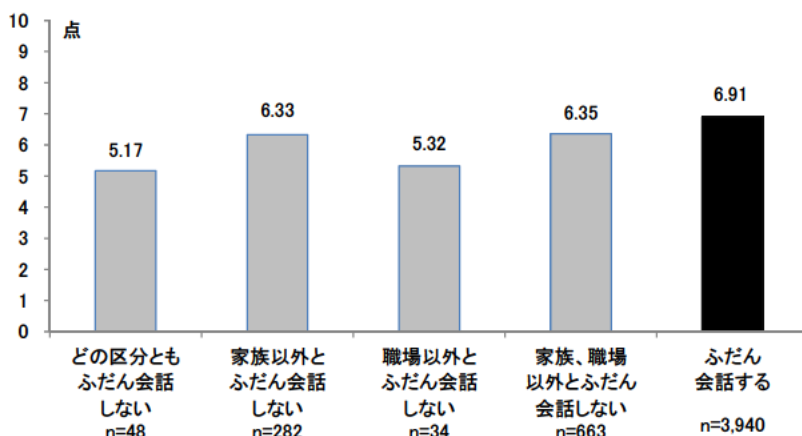
図表 4-1-12 幸福感の平均値(職場の人との会話頻度別)



図表 4-1-13 幸福感の平均値(友人知人との会話頻度別)



図表 4-1-14 幸福感の平均値(複数区分での会話頻度別)



## 第2節 地域活動への参画

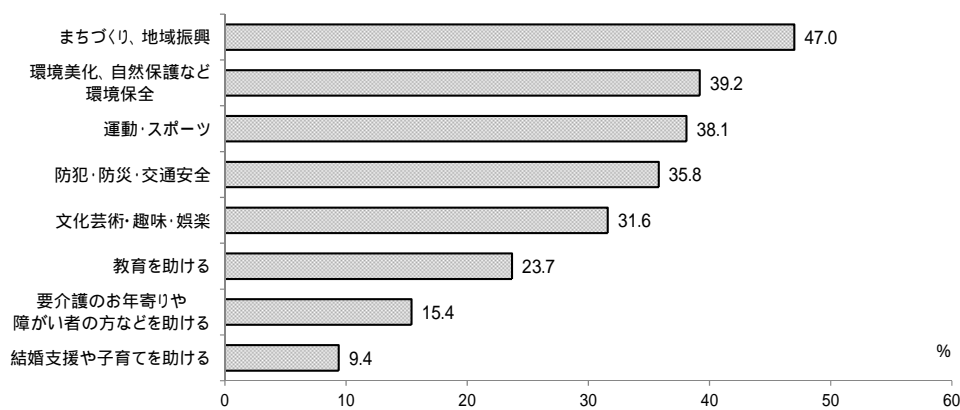
### 1 県全体の状況

地域活動への参加状況と意欲をみると「ふだん参加している」と「参加した経験がある」を合計した『参加経験』の割合は「まちづくり、地域振興の活動」が47.0%で最も高く、「結婚支援や子育てを助ける活動」は9.4%で最も低くなっています（図表4-2-1）。

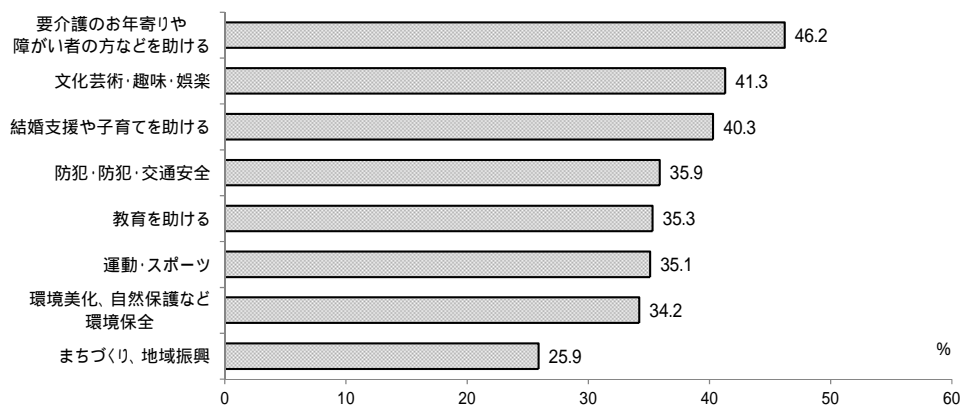
「参加したことはないが、機会があれば参加したい」（『未経験（意欲あり）』）の割合は、「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」が46.2%で最も高くなっています（図表4-2-2）。

「参加したことはなく、参加したいとも思わない」（『未経験（意欲なし）』）の割合は、「結婚支援や子育てを助ける活動」が42.1%で最も高くなっています（図表4-2-3）。

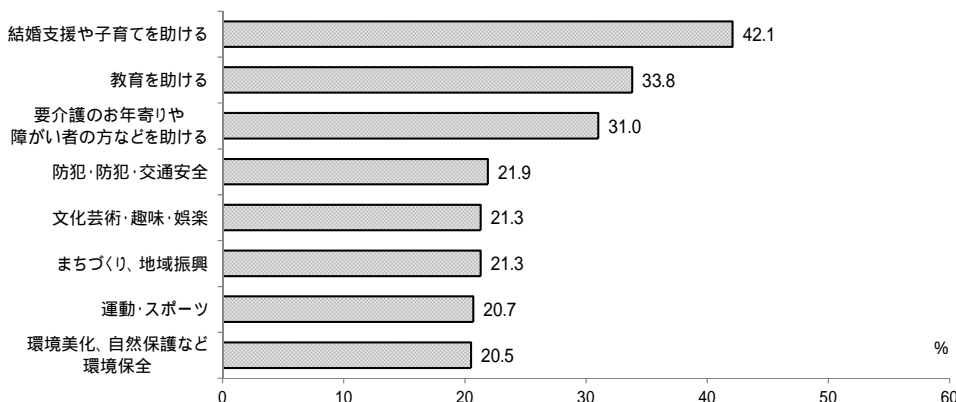
図表 4-2-1 地域活動への『参加経験』割合（項目別・割合順）



図表 4-2-2 地域活動への『未経験（意欲あり）』割合（項目別・割合順）



図表 4-2-3 地域活動への『未経験（意欲なし）』割合（項目別・割合順）



## 2 属性別の特徴

## (1) 『参加経験』者の特徴

各活動別に見ると、伊賀地域、40～60歳代、農林水産業、自営・自由業、有配偶、三世帯世帯では、多くの活動で『参加経験』が高くなっています（図表4-2-4）。

性別に見ると、男性と女性では活動項目が異なる傾向にあり、世帯収入別では、中高所得層が高くなっています。

また、「要介護者・障がい者支援」については、20歳代と70歳以上の割合が高いなど、他の項目とは異なる特徴となっています。

図表 4-2-4 『参加経験』の割合が高い属性項目

地域活動	地域	性別	年齢	主な職業	配偶関係	世帯類型	世帯収入
教育を助ける活動	伊賀	-	40～50代	農林水産業 自営・自由業 パート・アルバイト・派遣	有配偶	三世帯	600万円～
結婚支援や子育てを助ける活動	-	女性	30～40代	農林水産業 パート・アルバイト・派遣	-	二世帯 三世帯	400～500万円
防犯・防災・交通安全の活動	伊賀 東紀州	男性	40～60代	農林水産業 自営・自由業	有配偶	三世帯	600万円～
要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動	-	女性	20代 70以上	農林水産業 学生	離死別	-	400～500万円
まちづくり、地域振興の活動	伊賀 東紀州	男性	50～60代	農林水産業 自営・自由業 パート・アルバイト・派遣	有配偶	三世帯	400～1000万円
環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動	伊賀	男性	50～60代	農林水産業 自営・自由業	有配偶	三世帯	1000万円～
運動・スポーツ活動	伊賀	男性	50～60代	正規職員	有配偶	三世帯	400～500万円 800万円～
文化芸術・趣味・娯楽活動	伊賀	女性	60以上	農林水産業 専業主婦 無職	有配偶	一世帯	400～500万円 800～1000万円

（備考）『参加経験』の割合が県全体より高い属性項目で、統計的に有意な差（危険率5%未満）のものを記載しています。

## (2) 『未経験（意欲あり）』の特徴

多くの項目で、20歳代、30歳代の若年層、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員などの被雇用者、未婚の割合が高くなっています（図表4-2-5）。

図表 4-2-5 『未経験（意欲あり）』の割合が高い属性項目

地域活動	地域	性別	年齢	主な職業	配偶関係	世帯類型	世帯収入
教育を助ける活動	-	-	20～30代	正規職員 パート・アルバイト・派遣	-	-	300～500万円
結婚支援や子育てを助ける活動	-	女性	20～50代	正規職員 パート・アルバイト・派遣 専業主婦	有配偶	二世帯 三世帯	500～600万円 800万円～
防犯・防災・交通安全の活動	北勢	-	20～30代 60代	正規職員	未婚	-	-
要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動	-	男性	40～60代	パート・アルバイト・派遣	有配偶	二世帯	800～1000万円
まちづくり、地域振興の活動	-	-	20～40代	正規職員	未婚	-	-
環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動	-	-	30～40代	パート・アルバイト・派遣	未婚	-	800～1000万円
運動・スポーツ活動	-	-	20～30代	正規職員 パート・アルバイト・派遣 学生	未婚	-	500～600万円
文化芸術・趣味・娯楽活動	-	男性	20～50代	正規職員 パート・アルバイト・派遣	未婚	二世帯	500～800万円

（備考）『未経験（意欲あり）』の割合が県全体より高い属性項目で、統計的に有意な差（危険率5%未満）のものを記載しています。



(3) 『未経験（意欲なし）』の特徴

多くの項目で、20歳代、30歳代の若年層、正規職員、未婚の割合が高くなっています(図表4-2-6)。

図表 4-2-6 『未経験（意欲なし）』の割合が高い属性項目

地域活動	地域	性別	年齢	主な職業	配偶関係	世帯類型	世帯収入
教育を助ける活動	—	—	20～30代	正規職員 無職	未婚	—	—
結婚支援や子育てを助ける活動	—	男性	50代	正規職員 無職	未婚	—	600～800万円
防犯・防災・交通安全の活動	—	女性	20～30代	学生	未婚	—	—
要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動	—	男性	20～40代	正規職員	未婚	—	500～800万円 1,000万円～
まちづくり、地域振興の活動	—	女性	20～30代	専業主婦	未婚	—	—
環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動	—	—	20～40代	—	未婚	二世帯	—
運動・スポーツ活動	伊勢志摩	女性	30代	専業主婦 無職	未婚	—	—
文化芸術・趣味・娯楽活動	—	—	20～30代	—	未婚	—	100～200万円

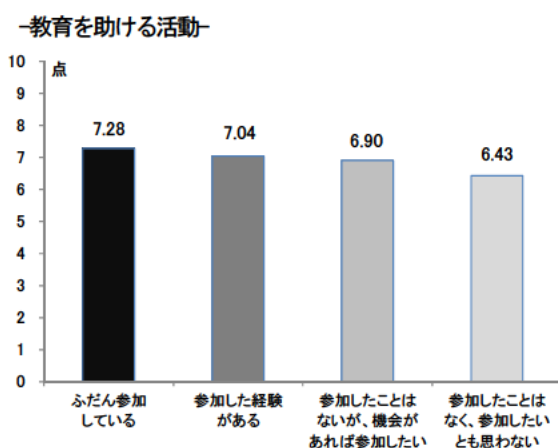
(備考) 『未経験（意欲なし）』の割合が県全体より高い属性項目で、統計的に有意な差（危険率5%未満）のものを記載しています。

3 地域活動への参画と幸福感の関係

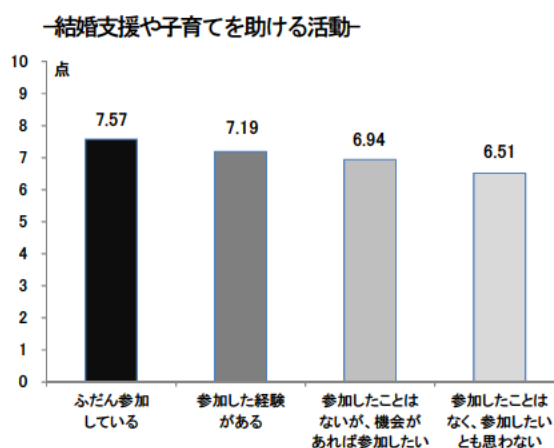
地域活動への参加状況・意欲と幸福感の関係を見ると、8項目中7項目で「ふだん参加している」方の幸福感の平均値が最も高く、すべての項目で「参加したくない」と回答した方の幸福感の平均値が最も低くなっており、全体的に地域活動への参加度合や意欲が高まるにつれ、幸福感の平均値も高まる傾向があります(図表4-2-7～図表4-2-14)。

なお、「ふだん参加している」と「参加したくない」の平均値の差は、「結婚支援や子育てを助ける活動」が最も大きく(1.06点)なっています(図表4-2-8)。

図表 4-2-7 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

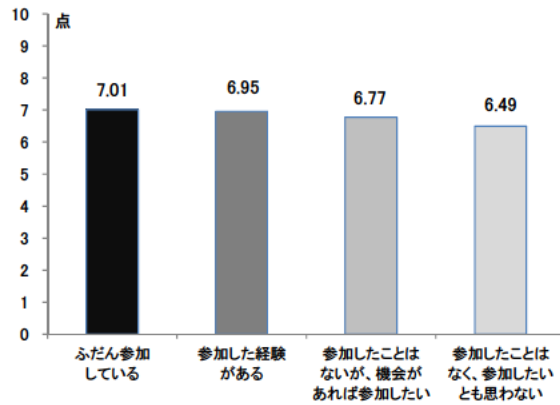


図表 4-2-8 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)



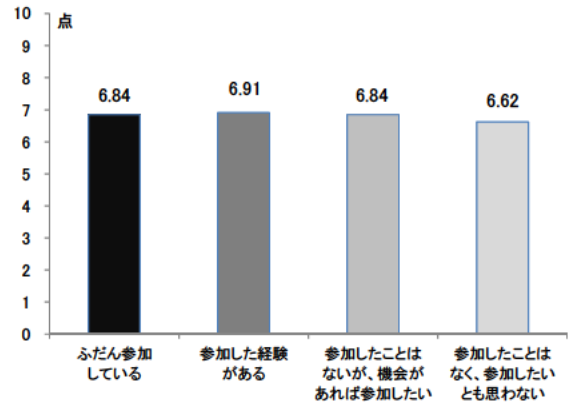
図表 4-2-9 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

—防犯・防災・交通安全の活動—



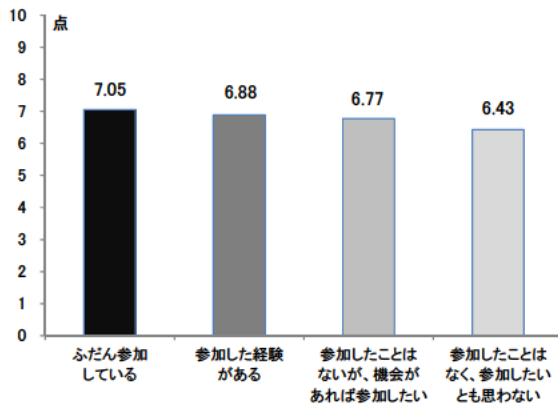
図表 4-2-10 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

—要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動—



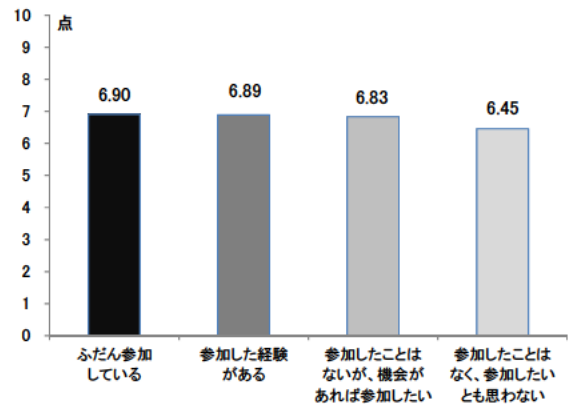
図表 4-2-11 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

—まちづくり、地域振興の活動—



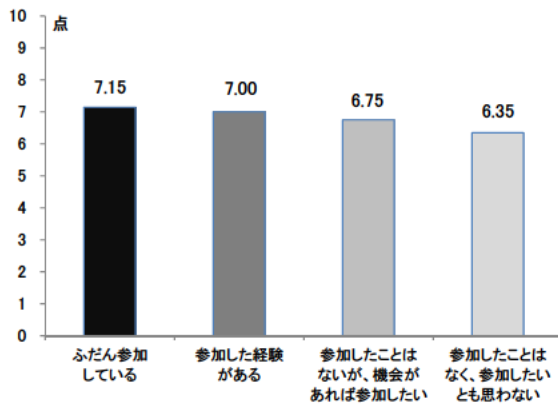
図表 4-2-12 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

—環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動—



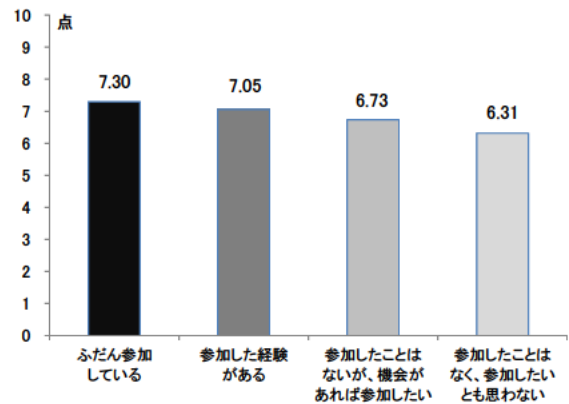
図表 4-2-13 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

—運動・スポーツ活動—



図表 4-2-14 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

—文化芸術・趣味・娯楽活動—

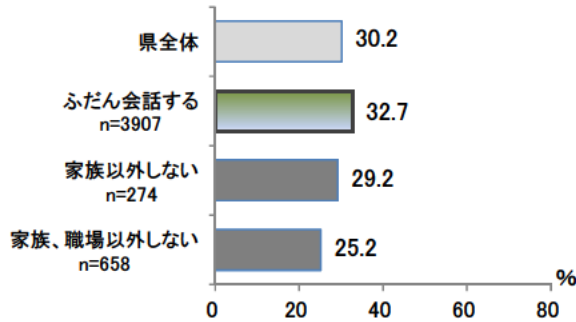


### 第3節 16の幸福実感指標との関係について

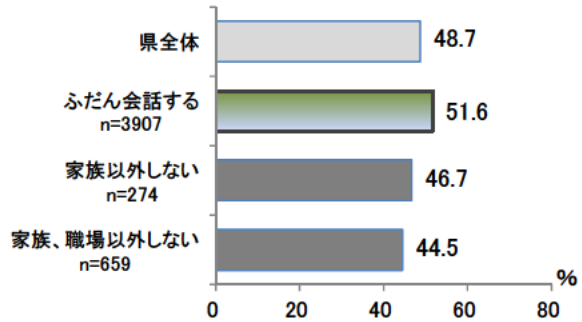
#### 1 会話の頻度と幸福実感指標との関係

会話の頻度と各幸福実感指標の『実感している』割合の関係を見ると、16の幸福実感指標のすべて『ふだん会話する』層が県全体よりも『実感している』割合が高くなっています(図表4-3-1~4-3-16)。県全体との差が最も大きいのは「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」で、『ふだん会話』する層の実感が県全体を5.6ポイント上回っています(図表4-3-10)。

図表 4-3-1 会話の頻度別の「実感している」割合  
(災害等の危機への備えが進んでいる)

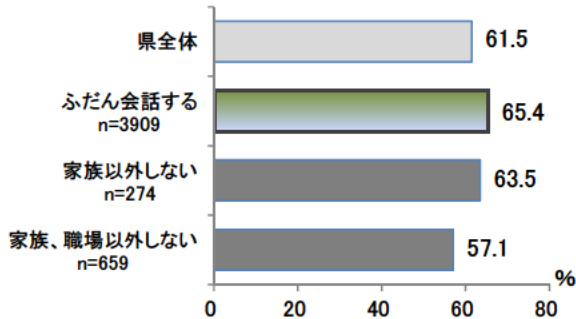


図表 4-3-2 会話の頻度別の「実感している」割合  
(必要な医療サービスが利用できる)

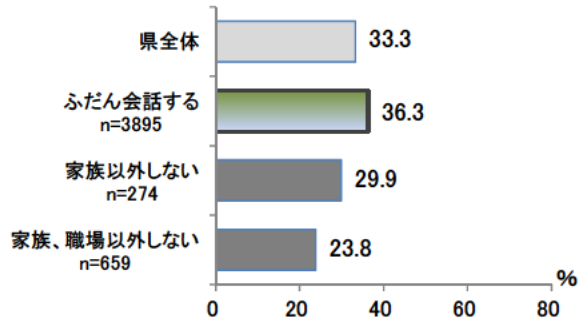


(備考) 「どの区分ともしない」、「職場以外しない」についてはサンプル数が少ないため、表記していません。

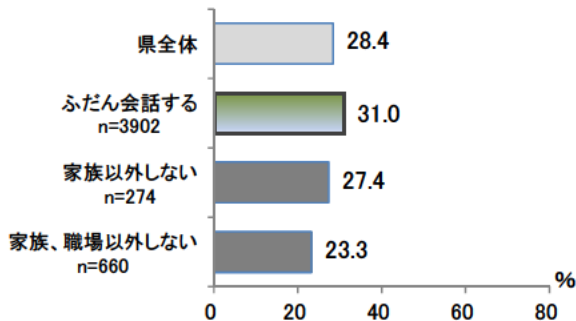
図表 4-3-3 会話の頻度別の「実感している」割合  
(犯罪や事故が少なく安全に暮らせている)



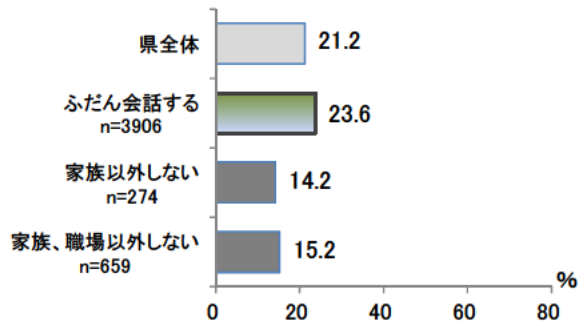
図表 4-3-4 会話の頻度別の「実感している」割合  
(必要な福祉サービスが利用できる)



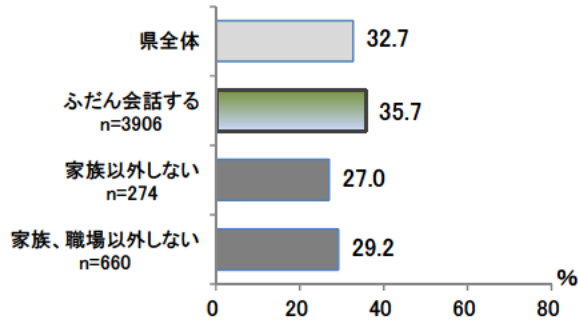
図表 4-3-5 会話の頻度別の「実感している」割合  
(身近な自然や環境を守る取組が広がっている)



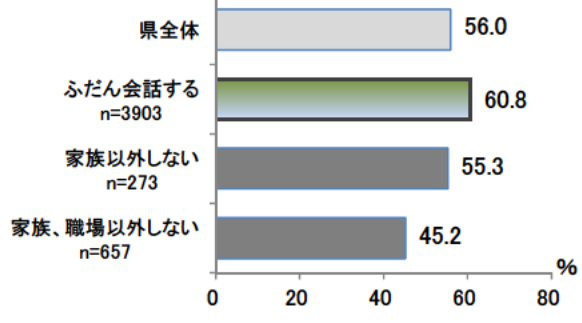
図表 4-3-6 会話の頻度別の「実感している」割合  
(一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている)



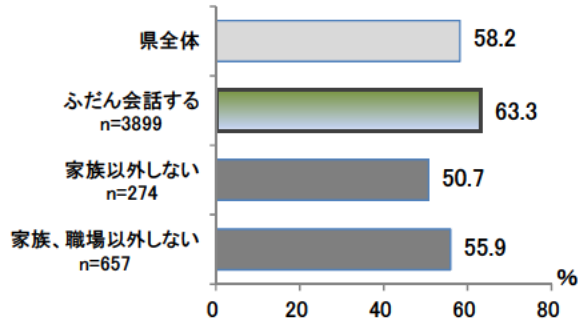
図表 4-3-7 会話の頻度別の「実感している」割合  
(子どものためになる教育が行われている)



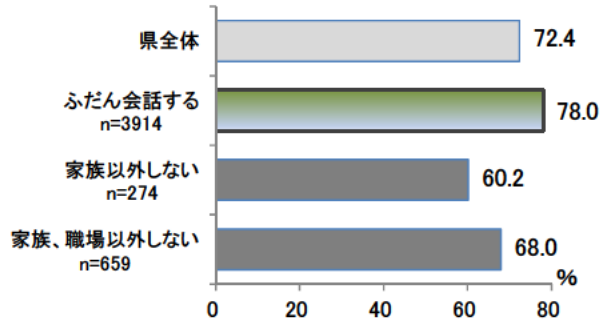
図表 4-3-8 会話の頻度別の「実感している」割合  
(地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている)



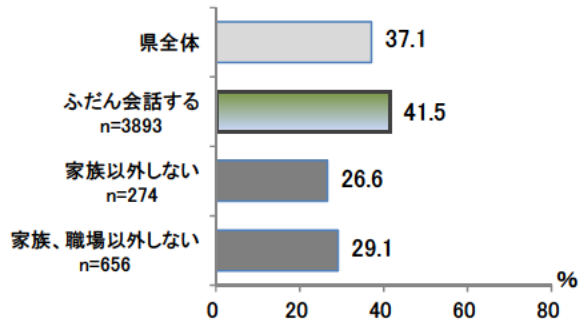
図表 4-3-9 会話の頻度別の「実感している」割合  
(スポーツを通じて夢や感動が育まれている)



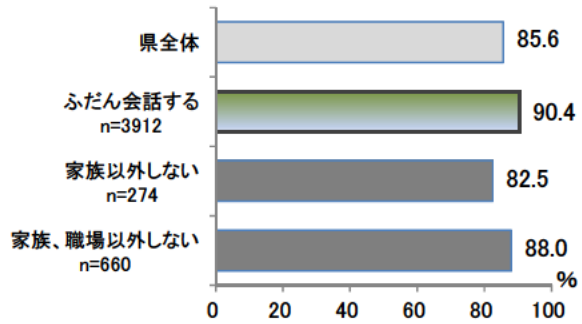
図表 4-3-10 会話の頻度別の「実感している」割合  
(自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい)



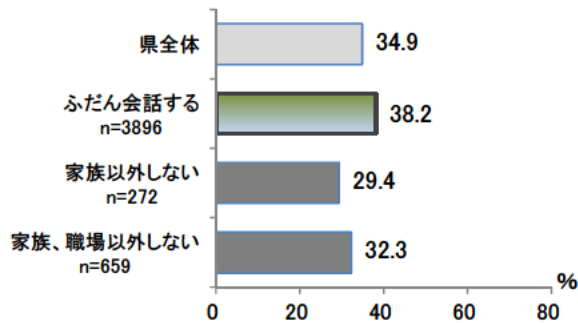
図表 4-3-11 会話の頻度別の「実感している」割合  
(文化芸術や地域の歴史等について、学び親むことができる)



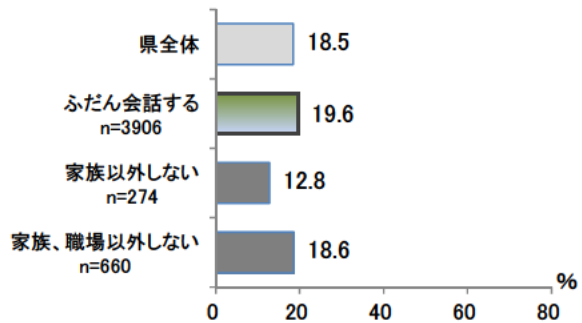
図表 4-3-12 会話の頻度別の「実感している」割合  
(三重県産の農林水産物を買いたい)



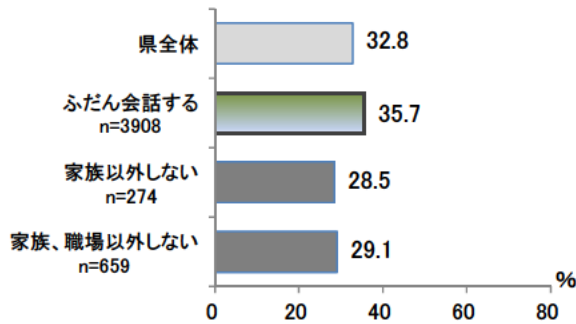
図表 4-3-13 会話の頻度別の「実感している」割合  
(県内の産業活動が活発である)



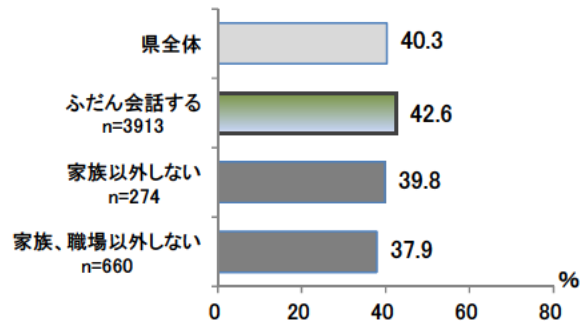
図表 4-3-14 会話の頻度別の「実感している」割合  
(働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている)



図表 4-3-15 会話の頻度別の「実感している」割合  
(国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる)



図表 4-3-16 会話の頻度別の「実感している」割合  
(道路や公共交通機関が整っている)



## 2 幸福実感指標と地域活動への参加状況との関係

16 の幸福実感指標の『実感している層』と『実感していない層』それぞれが、関連があると思われる地域活動にどの程度参加しているか、参加意欲があるのかをクロス集計したところ、すべての項目で『実感している層』の『参加経験』が『実感していない層』よりも高くなっています(図表 4-3-17 ~4-3-26)。

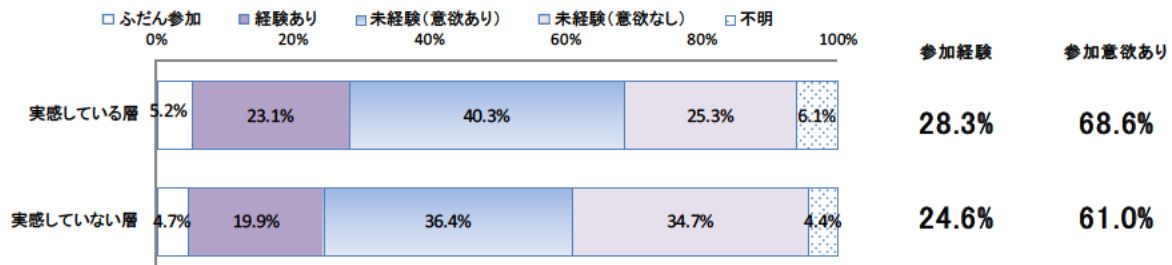
最も差が大きいのは「文化芸術や地域の歴史等について、学ぶ親しむことができる」の実感別の「文化芸術・趣味・娯楽活動」への参加経験で、実感している層と実感していない層で 16.7 ポイントの差があり(図表 4-3-26)、次いで「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」の実感別の「まちづくり、地域振興の活動」への参加経験(13.5 ポイント差)となっています(図表 4-3-23)。

また、『参加意欲あり』(※)についても、すべての項目で『実感している層』が『実感していない層』よりも高くなっています(図表 4-3-17~4-3-26)。

※ 『参加意欲あり』…『参加経験』に『未経験(意欲あり)』を加えた割合

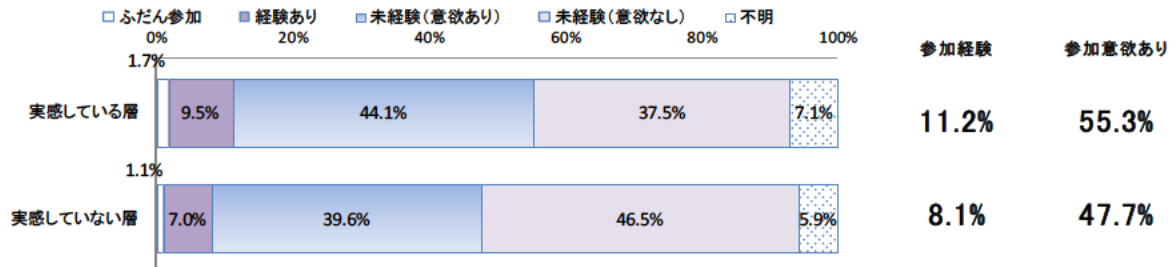
### (1) 「子どものためになる教育が行われている」と「教育を助ける活動」

図表 4-3-17 幸福実感指標「子どものためになる教育が行われている」の実感別の「教育を助ける活動」への参加割合



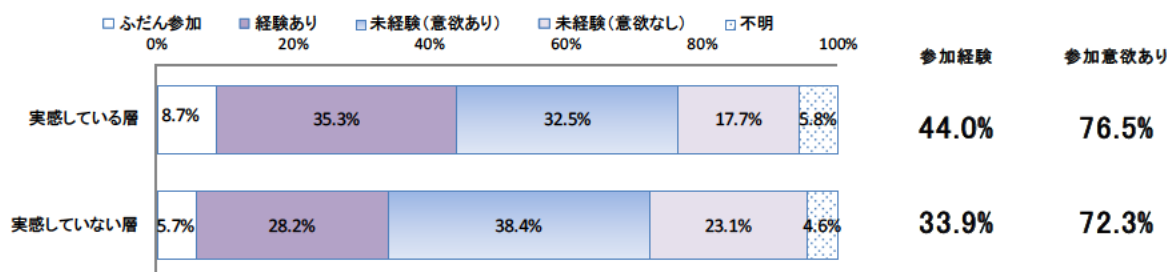
(2) 「地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている」と「結婚支援や子育てを助ける活動」

図表 4-3-18 幸福実感指標「地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている」の実感別の「結婚支援や子育てを助ける活動」への参加割合



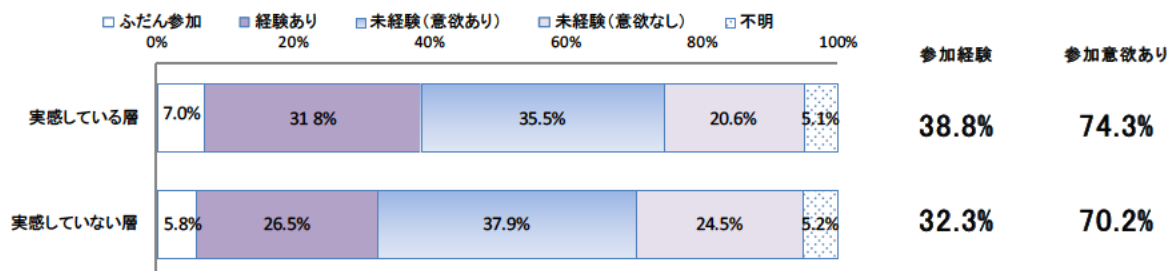
(3) 「災害等の危機への備えが進んでいる」と「防犯・防災・交通安全の活動」

図表 4-3-19 幸福実感指標「災害等の危機への備えが進んでいる」の実感別の「防犯・防災・交通安全の活動」への参加割合



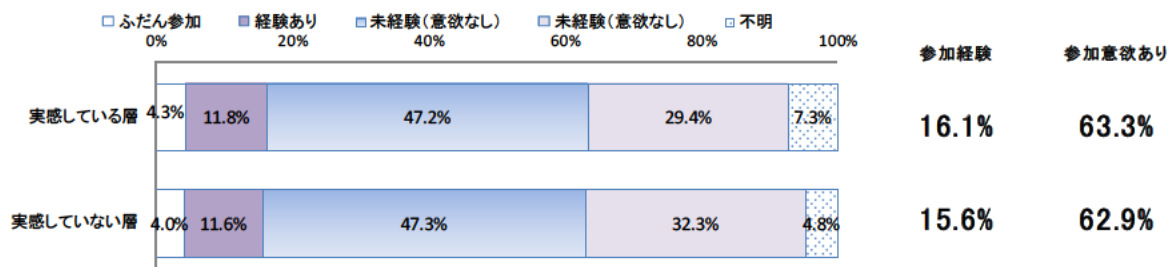
(4) 「犯罪や事故が少なく、安全に暮らしている」と「防犯・防災・交通安全の活動」

図表 4-3-20 幸福実感指標「犯罪や事故が少なく、安全に暮らしている」の実感別の「防犯・防災・交通安全の活動」への参加割合



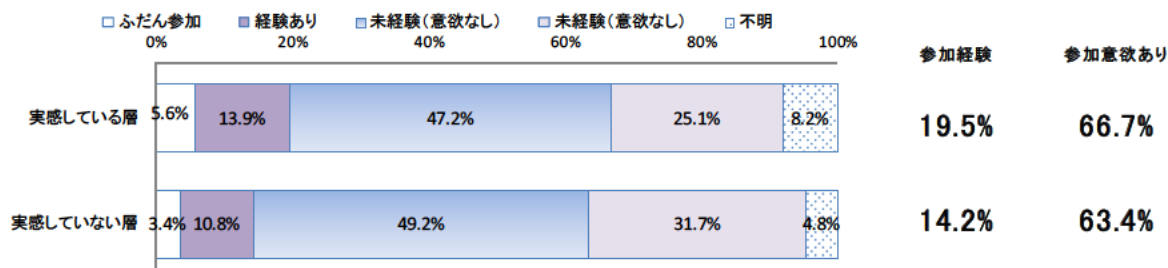
(5) 「必要な医療サービスが利用できている」と「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」

図表 4-3-21 幸福実感指標「必要な医療サービスが利用できている」の実感別の「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」への参加割合



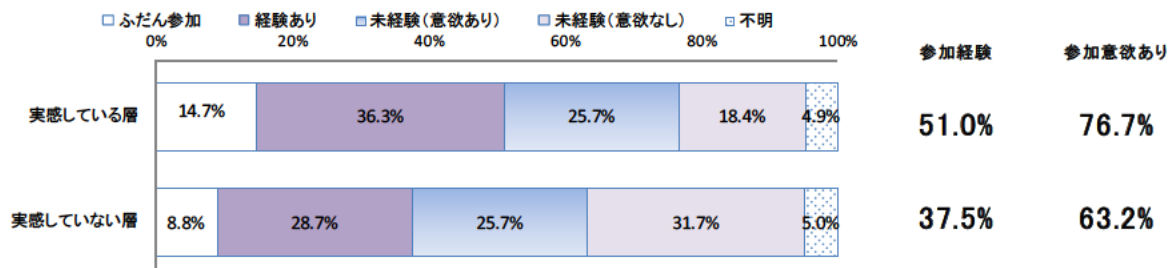
(6) 「必要な福祉サービスが利用できている」と「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」

図表 4-3-22 幸福実感指標「必要な福祉サービスが利用できている」の実感別の「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」への参加割合



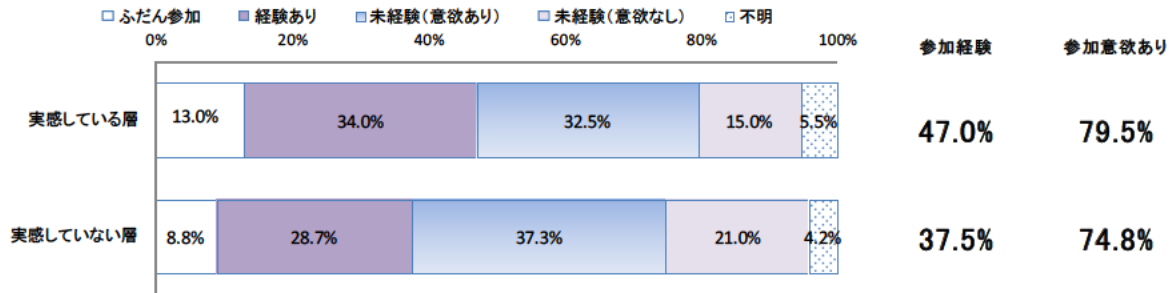
(7) 「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」と「まちづくり、地域振興の活動」

図表 4-3-23 幸福実感指標「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」の実感別の「まちづくり、地域振興の活動」への参加割合



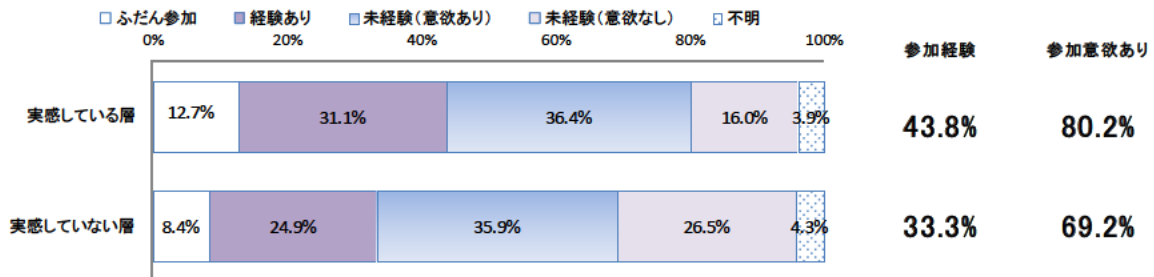
(8) 「身近な自然や環境を守る取組が広がっている」と「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」

図表 4-3-24 幸福実感指標「身近な自然や環境を守る取組が広がっている」の実感別の「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」への参加割合



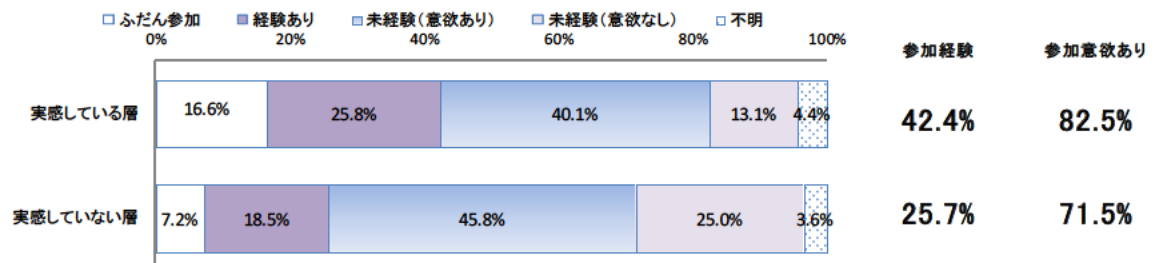
(9) 「スポーツを通じて夢や感動が生まれている」と「運動・スポーツ活動」

図表 4-3-25 幸福実感指標「スポーツを通じて夢や感動が生まれている」の実感別の「運動・スポーツ活動」への参加割合



(10) 「文化芸術や地域の歴史等について、学び楽しむことができる」と「文化芸術・趣味・娯楽活動」

図表 4-3-26 幸福実感指標「文化芸術や地域の歴史等について、学び楽しむことができる」の実感別の「文化芸術・趣味・娯楽活動」への参加割合





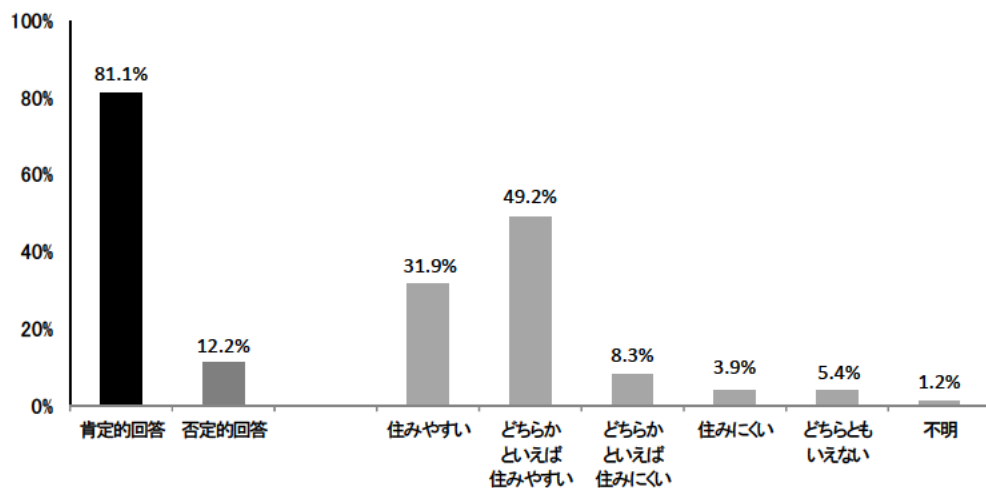
## 第4節 地域の住みやすさについて

### 1 県全体の傾向

地域の住みやすさについて質問したところ、県全体では、「住みやすい」が31.9%、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合計した『肯定的回答』が81.1%となっています(図表4-4-1)。

また、属性別に全体との差を見ると、地域や世帯収入など属性により、肯定的回答の割合に差が見られます(図表4-4-2)。

図表 4-4-1 地域の住みやすさについて(全体)



図表 4-4-2 「肯定的回答」の回答割合の特徴がある属性項目

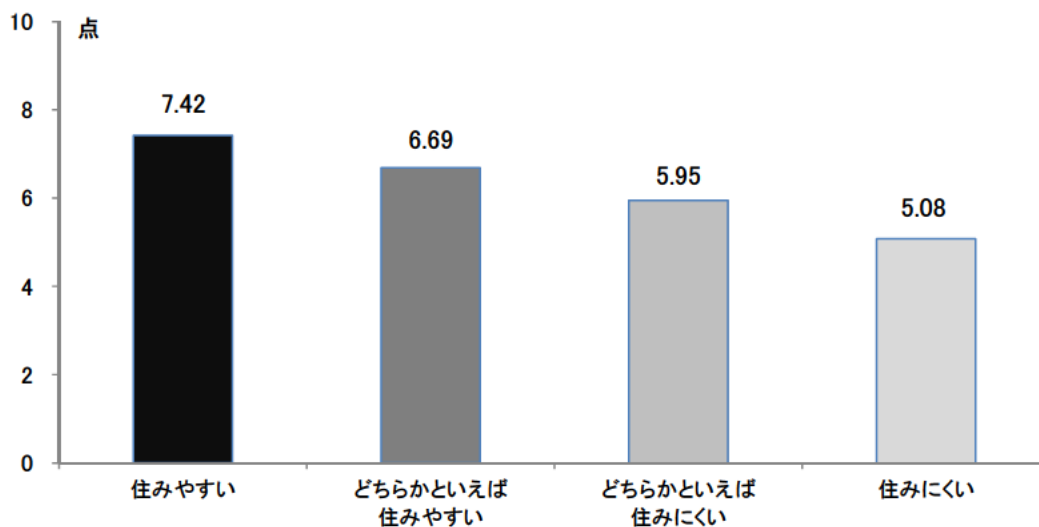
割合が高い	割合が低い
北勢地域	伊賀地域、伊勢志摩地域、東紀州地域
男性	
自営業・自由業、正規職員	40歳代
	無職
	離別・死別
	単独世帯
500万円～	0～200万円

(備考) 「割合が高い」は、『肯定的回答』の割合が県全体より高い属性項目で、「割合が低い」は、『肯定的回答』の割合が県全体より低い属性項目で、いずれの差も統計的に有意な水準(危険率5%未満)のものを記載しています。また、金額は世帯の年間収入です。

## 2 地域の住みやすさと幸福感との関係

地域の住みやすさについての回答別に幸福感との関係を見ると、肯定的な回答をした方が幸福感の平均値が高くなっています（図表 4-4-3）。

図表 4-4-3 幸福感の平均値（地域の住みやすさの回答別）



## 3 地域の住みやすさと幸福実感指標との関係

地域の住みやすさについての回答と幸福実感指標「地域に愛着があり、今後も住み続けたい」との関係を見ると、地域の住みやすさに肯定的な回答をされた方ほど、実感している割合が高くなる傾向が見られます（図表 4-4-4）。

図表 4-4-4 地域の住みやすさの回答別「実感している」割合

